

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24242035

研究課題名(和文) 教育・学習の文化的・生態学的基盤：リズム，模倣，交換の発達に関する人類学的研究

研究課題名(英文) Cultural and ecological foundations of education and learning: An anthropological study on rhythm, imitation, and exchange

研究代表者

高田 明 (Takada, Akira)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：70378826

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,700,000円

研究成果の概要(和文)：代表者はこれまで、相互行為における応答の力を基礎として、子どもと養育者の双方が責任を文化的に形成する仕組みを明らかにしてきた。本研究の目的は、この研究に立脚して子どもの教育・学習が成立する基盤を再考することである。そこで日本を含むアジア・アフリカ諸国において、(1)リズム、(2)模倣、(3)交換に関する養育者-子ども(胎児～4歳)間相互行為の発達についての実証的データを収集・分析し、教育・学習の様式を基礎づける文化的・生態学的な構造を明らかにした。具体的には、国内外で計30回のデータセッション、計16回の「教育・学習の人類学セミナー」を主催した。また、調査参加者向けの報告書を毎年度作成した。

研究成果の概要(英文)：The primary investigator has clarified the system by which responsibility is formed culturally, based on our concept that both child and caregiver develop responsibility gradually, according to their ability to respond during interactions. Based on these studies, this project aims to reconsider the foundations of human education and learning. Thus in our research, carried out in countries in Asia and Africa, including Japan, we collected and analyzed empirical data related to (1) the development of rhythm, (2) the development of imitation, and (3) the development of exchange in caregiver-child (from fetus to four year-old) interactions, and clarified the cultural and ecological structures that shape the patterns of education and learning. For this purpose, our research team held data session for 30 times, and the Seminar of Anthropology of Education and Learning for 16 times during the research period. Additionally, we made the annual reports for the research participants.

研究分野：文化人類学

キーワード：子ども 生態・環境 相互行為 教育・学習

1. 研究開始当初の背景

近年、ヒトの教育や学習を基礎づけている特徴に注目が集まり、多くの研究が、教育や学習に関する古典的な問題を脳科学や神経科学の最新の成果と結びつけて、その物理的な基盤に迫ろうとしている。その一方で、教育や学習のあり方の文化的・生態学的側面についての十分な議論はない。人類学、とりわけ南部アフリカのサンの研究はこうした問題に早くから独自の貢献を行ってきた。だが1980年代以降は、研究潮流の変化を受け、教育や学習に関する研究はあまり行われなくなった。こうした状況で、代表者は1990年代後半からサンの相互行為の発達について新たな知見を示してきた。平成19年度に採択された若手研究(S)では、相互行為における応答の力(ability of response)が基礎となり、子どもと養育者の双方が責任(responsibility)を徐々に発達させると考えて、責任が文化的に形成される仕組みを探求してきた。

2. 研究の目的

前述のサン研究はサンをはじめとする狩猟採集社会では明示的な教育は行われないと主張してきた。これは具体的には、社会化という観点に立てば、狩猟採集社会における密着した母子関係や子ども集団での遊びは西欧の教育システムに比肩する機能を担う、という主張である。一方、代表者の責任形成に関する理論的枠組みでは、教育・学習は明示的な意図の有無にかかわらず不可分な相互行為上の出来事である。さらに、相互行為を通じて生態環境の中には身体的ニッチ、物質的ニッチなどからなる「ハビタット」が形成され、文化的な価値の教育・学習はこのハビタットに支えられている。教育・学習をこうとらえ直せば、従来のサン研究の知見は近年隆盛をきわめている生得的教育学の普遍性仮説と必ずしも矛盾しない。求められるのは、生得的教育学では十分に考察されていない、初期の教育・学習を基礎づける文化的・生態学的な構造を明らかにすることである。そこで本研究では、代表者の本務校等で長期フィールドワークの実施体制を整えてきた日本を含むアジア・アフリカ諸国において、リズムの発達、模倣の発達、交換の発達という3テーマに関するデータの収集・分析を進める(図2)。

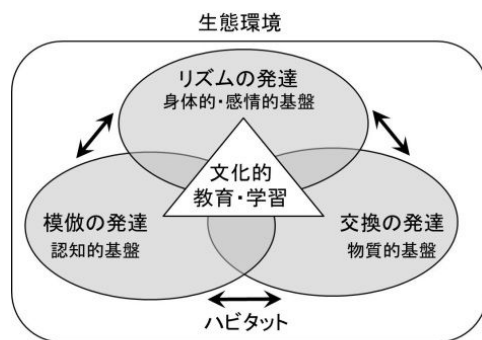


図2 概念図

3. 研究の方法

本研究では、子どもの教育・学習が成立する基盤をとらえなおすため、リズムの発達、模倣の発達、交換の発達についての養育者-子ども(胎児~4歳)間相互行為に関するデータの収集・分析を行う。海外調査では、代表者の本務校等で長期フィールドワーク実施体制を整えてきたアジア・アフリカ諸国において、自然的観察法(上記の3テーマに関わる社会・歴史的に構築されてきた実践の観察)と実験的観察法(上記の3テーマに関わる課題を設定した場面の観察)を併用した長期フィールドワークを行う。日本国内では、主として実験的観察法を用いた調査および心理学的実験を行う。分析では、自然的観察法を用いて主に日本国内で収集してある動画資料、および海外の研究協力者が保有する本研究と関連するデータも活用する。

4. 研究成果

上記の研究目的を受けて、平成24~26年度に海外調査を行った。平成24年度は、ボツワナのニューカデ村でグイおよびガナの言語的社会化に関する調査を行い、得られたデータに基づいてボツワナ大学の教員や同大学への訪問研究者らと議論を行った。さらにその後訪問したケープタウン大学、シンガポール国立大学でも同様の議論を行った。平成25年度はボツワナのグイ/ガナ、ローカルNGO、大学関係者と共にワークショップの企画・運営・発表を行った。平成26年度はボツワナのニューカデ村周辺で言語的社会化に関するフォローアップ調査を行った。

日本国内では、乳幼児がいる家庭10軒(乳幼児は計28名)の定期訪問によって得られた(1)リズムの発達、(2)模倣の発達、(3)交換の発達に関する研究資料の解析を継続的に進めた。具体的には、おもに動画資料に基づくジェスチャーや会話の文字起こしを作成・整理し、その分析方法について検討を進めた。また、共同研究者とデータベースを共有して組織的な分析を行うとともに、これまでに収集した海外の言語的社会化に関する資料に基づいて議論を行った。さらに、通常のビデオカメラを用いた動画資料に加えて、乳幼児と養育者の相互モニタリング過程を正確に記録・分析するための、小型のアイカメラを用いた動画資料の収集方法について検討を進めた。

これらと並行して、動画資料の文字起こしに基づいて国内外で平成24年度~平成27年度に計30回のデータセッションを行った。平成24年度は特にリズムの発達について集中的に検討し、養育者-子ども間相互行為では早い時期から共同的音楽性を通じて「間主観的時間」の構造が導入されること、それはその社会における道徳性が育まれる基礎となることを明らかにした。平成25年度は特に模倣の発達について集中的に検討し、子ども

は社会的状況における協調的行為への参加を通じて模倣活動に巻き込まれていくことを明らかにした。平成 26 年度は特に交換の発達について集中的に検討し、子どもは社会的状況で適切に振る舞うことに動機づけられた行為に習熟する中で、相互行為上の互酬的な規範を参照するようになっていくことを明らかにした。平成 27 年度はリズム、模倣、交換の発達の関係について集中的に検討し、さまざまな文化的集団における教育・学習の実践と、身体的ニッチ、物質的ニッチ等からなる「ハピタット」形成との関わりについての考察を進めた。

代表者らはこれらの研究成果の一部を代表者が定期的に主催してきた国際ワークショップ(「教育・学習の人類学セミナー(平成 24 年度～平成 27 年度にかけて計 16 回開催)」)をはじめとする国内外のシンポジウムや学会で議論した。また調査参加者に向けた報告書を作成し、保護者に配布するとともに HP に掲載した。また本プロジェクトの集大成として、平成 26 年度には英文単著『Narratives on San ethnicity: The cultural and ecological foundations of lifeworld among the !Xun of north-central Namibia』、平成 27 年度には編著書『子育ての会話分析』、ASM 特集号『Natural history of communication among the Central Kalahari San』などを出版した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 89 件)

Senzaki, S., Masuda, T., Takada, A., and Okada, H. (2016) The communication of culturally dominant modes of attention from parents to children: A comparison of Canadian and Japanese parent child conversations during a joint scene description task. *PLoS ONE*, **11**(1), e0147199.
DOI:10.1371/journal.pone.0147199.

Takada, A. & Endo, T. (2015) Object transfer in request-accept sequence in Japanese caregiver-child interactions. *Journal of Pragmatics*, **82**, 52-66. DOI: 10.1016/j.pragma.2015.03.011

Kaneko, M. (2015) Collections and archives on Ethiopian studies at the Frobenius institute. *Nilo-Ethiopian Studies*, **20**, 33-40.

高木智世・森田 笑 (2015) 「ええと」によっ

て開始される応答. *社会言語科学*, **18**(1), 93-110.

Burdelski, M. (2015) Reported speech as cultural gloss and directive: Socializing norms of speaking and acting in Japanese caregiver-child triadic interaction. *Text & Talk*, **35**(5), 575-595. DOI: DOI 10.1515/text-2015-0017

Osaka, N., Minamoto, T., Yaoi, K., Azuma, M., Shimada Y. M., & Osaka, M. (2015) How two brains make one synchronized mind in the inferior frontal cortex: fNIRS-based hyperscanning during cooperative singing. *Frontiers in Psychology*, **6**, 1811. DOI: <http://doi.org/10.3389/fpsyg.2015.01811>.

Kawahara, T., Yamaguchi, T., Uesato, M., Yoshino, K. and Takanashi, K. (2015) Synchrony in prosodic and linguistic features between backchannels and preceding utterances in attentive listening. *Proceedings of Asia-Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference (APSIPA 2015)*, 392-395.

高田 明 (2014) 家族関係と子どもの発達: 人類学的アプローチ. *乳幼児医学・心理学研究*, **23**(1), 11-18.

Kaneko, M. (2014) "I know how to make pots by myself": Special reference to local knowledge transmission in Southwestern Ethiopia. *African Study Monographs Supplementary Issue*, **48**, 59-75.

Burdelski, M., Kawashima, M., & Yamazaki, K. (2014) Storytelling in guided tours: Practices, engagement, and identity at a Japanese American museum. *Narrative Inquiry*, **24**(2), 324-346.

高田 明 (2013) ナミビアにおける教育改革についての一考察: オバンボランドのクンをめぐる教育実践. *アフリカ教育研究*, **4**, 19-34.

Takada, A. (2013) Generating morality in directive sequences: Distinctive strategies for developing communicative competence in Japanese caregiver-child interactions. *Language & Communication*, **33**, 420-438. DOI:

<http://dx.doi.org/10.1016/j.langcom.2013.03.012>

Liszkowski, U., Brown, P., Callaghan, T., Takada, A., and de Vos, C. (2012) A prelinguistic gestural universal of human communication. *Cognitive Science*, **36**, 698-713. DOI: <http://dx.doi.org/10.1111/j.1551-6709.2011.01228.x>

[学会発表](計154件)

Takada, A. (2015) Panel discussant of Plenary III: CHAGS11: What have we learnt. *The 11th Conference on Hunting and Gathering Societies*, University of Vienna, Vienna, September 7-11 (11th September).

Takada, A. (2015) Action anticipation in singing and dancing activities among toddlers of the !Xun of north-central Namibia. Paper presented at *Loch Lomond Symposium on Action Anticipation*, Ross Priory, Loch Lomond, September 2-4 (3rd September).

Takada, A. & Kawashima, M. (2015) Socialization practices regarding shameful (*hazukashii*) in Japanese caregiver-child interactions. Paper presented at *the 14th International Pragmatics Conference*, Antwerp, Belgium, July 26-31 (27th July).

Takada, A. (2015) Socialization of toddlers through participating in singing and dancing activity of multi-aged child group of the !Xun of north-central Namibia. Paper presented at *Revisiting Participation. Language and Bodies in Interaction*, University of Basel, Switzerland, June 24-27 (26th June).

Takada, A. (2015) What kinds of child and

family studies can an anthropologist conduct? A case study of the !Xun of north-central Namibia. Paper presented at *the NIAS workshop "Children seen and heard across the globe: A multidisciplinary cross-cultural approach to video data of family life and child development"*, NIAS, Wassenaar, the Netherlands, April 29 - May 1 (29th April).

Takagi, T. & Morita, E. (2015) Answering a difficult question and answering more than asked: Differentiated use of Japanese *eeto* and *anoo* prefaced responding turns. Paper presented at *the 14th International Pragmatics Conference*, Antwerp, Belgium, July 26-31 (27th July).

Kaneko, M. & Shigeta, M. (2015) Local knowledge as a mode of coexistence: The acceptance of modern school education. Paper presented at *5th Africa Forum, Addis Ababa: Local Knowledge as African Potential*, Addis Ababa, Ethiopia, October 30 - November 1.

Kimura, D. (2015) Interpenetration of self observed in Baka's social interaction. Paper presented at *The 11th Conference on Hunting and Gathering Societies*, University of Vienna, Vienna, September 7-11.

高梨克也 (2015) 乳幼児の環境探索行動とコミュニケーションの関わり. *HCG シンポジウム 2015*, 富山国際会議場, 富山, 2015・12・16.

Burdelski, M. (2015) Interactional routines, explicit instruction, and affective stance in child-child interactions in Japanese. Paper presented at *the 14th International Pragmatics Conference*, Antwerp, Belgium, July 26-31 (27th July).

Takada, A. (2014) Communicative musicality and socialization among the !Xun of north-central Namibia. Paper presented at *Series of guest lectures in psychology*, Center for

Developmental & Applied Psychological Science, Aalborg University, Denmark, November 27.

高田 明 (2014) 狩猟採集社会における授乳の特徴と働き. 日本人類学会進化人類学分科会 第32回シンポジウム「人類進化における母乳哺育」, 東京大学医学部(本郷キャンパス), 東京, 2014・6・7.

Takagi, T. (2014) Young Children's techniques for resolving "problems" in identifying objects for recipients. Paper presented at *International Conference on Conversation Analysis*, UCLA, USA, June 28.

Kaneko, M. (2014) Is this waste? Lifecycles of ensete, pots and notebooks in Southwestern Ethiopia. Paper presented at *English for the Social Sciences*, Centre de la Vieille Charité, France, December 8.

高梨克也 (2014) 聞き手の情報行動から見た会話コミュニケーションの生態学. 第13回対照言語行動学研究会, 青山学院大学, 東京, 2014・11・01.

嶋田容子 (2014) 声かけパターンの操作による音楽性と社会性の分岐. 第78回日本心理学会, 同志社大学, 京都, 2014・11・9.

Burdelski, M. (2014) Interaction routines and explicit instruction in child-child interactions in a Japanese preschool. Paper presented at *American Association for Applied Linguistics*, Toronto, Canada, March 21-24.

高田 明 (2013) 家族関係と子どもの発達: 人類学的アプローチ. 第23回日本乳幼児医学・心理学会講演, 北海道大学, 北海道, 2013・10・26.

Takada, A. (2013) Use of embodied or sensory knowledge in directive sequences in Japanese caregiver-child interactions. Paper presented at *the 13th International Pragmatics Conference*, New Delhi, India, September 8-13 (9th September).

Takada, A. (2013) The spread of the Chebama treatment among the G|ui and G||ana of Botswana. Paper presented at *the Satterthwaite Colloquium on African Ritual and Religion*, Grasmere, U.K., July 15-18 (16th July).

Takada, A. (2013) Kinship and socializing practices among the !Xun of North-central Namibia. Paper presented at *the 10th Conference on Hunting and Gathering Societies*, University of Liverpool, Liverpool, June 25-28 (26th June).

高田 明 (2013) ギイ / ガナにおける環境知識の伝達と生成. 九州大学大学院人間環境学研究院学際シンポジウム「教えるということ: その起源を考える」, 九州大学, 福岡, 2013・3・19.

高木智世・高田 明 (2013) 国際ワークショップ: 保育・育児の相互行為分析, 筑波大学東京キャンパス, 東京, 2013・3・9. (Co-organizer)

Takada, A. (2012) Responsibility in giving and taking activity: Analysis of directive sequences between Japanese caregivers and children. Paper presented at *the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences 2012 Inter-Congress: Children and Youth in a Changing World*, Bhubaneswar, India, November 26-30 (26th November).

Takada, A. (2012) Re-enacting birth: The spread of the chebama ritual among the G|ui and G||ana. Paper presented at *the 111th Annual meeting of American Anthropological Association*, San Francisco, November 14-18 (15th November).

Takada, A. (2012) Communicative musicality and learning in caregiver-child interactions among the San of north-central Namibia. Paper presented at *RNMH2012: the First International Conference of Replacement of Neanderthals by Homo sapiens: Testing*

evolutionary models of learning, Tokyo, November 18-24 (19th November).

Takada, A. & Endo, T. (2012) Do me a favor: Object requests embedded in directive sequences in Japanese caregiver-child interactions. Paper presented at *Language, Culture and Mind V: Integrating Semiotics Resources in Communication and Creativity*, Universidade Catolica Portuguesa, CECC-FCH, Lisbon, Portugal, June 27-29 (27th June).

Takada, A. (2012) Socializing practices and kin relationships among the !Xun of Ekoka. Paper presented at *the 50th Anniversary Conference of the Centre of African Studies, University of Edinburgh: CAS@50: Cutting Edges and Retrospectives*, University of Edinburgh, Scotland, June 6-8 (8th June).

〔図書〕(計 26 件)

Takada, A. (2016) Special Issue: Natural history of communication among the Central Kalahari San. *African Study Monographs, Supplementary Issue*, **52**, 1-187. (Volume editor)

高田 明・嶋田 容子・川島 理恵(編)(2016) *子育ての会話分析: おとなと子どもの「責任」はどう育つか*. 京都: 昭和堂. ix, 251p.

Takada, A. (2015) *Narratives on San ethnicity: The cultural and ecological foundations of lifeworld among the !Xun of north-central Namibia*. Kyoto University Press & Trans Pacific Press. xviii, 198p.

Takada, A., Nyamongo, I., & Teshirogi, K. (eds.)(2014) Special Issue: Exploring African potentials: The dynamics of action, living strategy, and social order in Southern Africa. *MILA - A Journal of the Institute of Anthropology, Gender and African Studies* **12**: iii-iv, 1-75. (Volume editor)

木村大治 (編著)(2014) *動物と出会う I - 出*

会いの相互行為. 京都: ナカニシヤ出版. xviii, 197p.

木村大治 (編著)(2014) *動物と出会う II - 心と社会の生成*. 京都: ナカニシヤ出版. xx, 174p.

Takada, A. (ed.)(2013) Special Issue: Vitalizing indigenous knowledge in Africa. *African Study Monographs*, **34**(3), 139-183. (Volume editor)

〔その他〕
ホームページ等
本プロジェクトの HP (和文)
<http://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/fel/en/>
本プロジェクトの HP (英文)
<http://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/fel/>

6. 研究組織
(1)研究代表者
高田 明 (TAKADA, Akira)
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授
研究者番号: 70378826

(2)研究分担者
高木 智世 (TAKAGI, Tomoyo)
筑波大学・人文社会科学部研究科・准教授
研究者番号: 00361296

木村 大治 (KIMURA, Daiji)
京都大学・アフリカ地域研究資料センター・教授
研究者番号: 40242573

金子 守恵 (KANEKO, Morie)
京都大学・人間・環境学研究所・助教
研究者番号: 10402752

(3)連携研究者
高梨 克也 (TAKANASHI, Katsuya)
京都大学・学術情報メディアセンター・研究員
研究者番号: 30423049

嶋田 容子 (SHIMADA, Yohko)
同志社大学・赤ちゃん学研究所・JSPS 特別研究員(RPD)
研究者番号: 60422903

マシュー バーデルスキー (Matthew, BURDELSKI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 80625020